観光地域づくり法人形成･確立計画

記入日：令和７年　７月３１日

１．観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを〇で囲むこと	広域連携ＤＭＯ･地域連携ＤＭＯ･(地域ＤＭＯ)	
観光地域づくり法人の名称	（一社）上松町観光協会	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	長野県木曽郡上松町 （木曽町・大桑村・王滝村・宮田村・駒ケ根市）	
所在地	長野県木曽郡上松町大字上松１５９－３	
設立時期	平成２８年４月１日	
事業年度	令和６年４月１日から翌年３月３１日までの１年間	
職員数	３８人【常勤６人（正職員５人・出向等１人）、非常勤３２人】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	（氏名） 羽毛田　盛雄 （出身組織名） 元灰沢鉱泉経営者、前上松町商工会会長	上松町の温泉旅館「灰沢鉱泉」を長年経営。長野県温泉協会理事として勤務、国の温泉協会と連携。前上松町商工会長。任意団体の時代から観光協会会長を務め、法人化・地域づくり法人の形成に尽力。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（ＣＭＯ：チーフ・マーケティング・オフィサー ※必ず記入すること	（氏名） 本田　真士「専従」 （出身組織名） 玉川大学大学院	３年間の地域おこし協力隊を経て、平成３０年８月から上松町観光協会に就職。大学院で専攻した昆虫や自然体験と山間地の観光を結びつけるべく取り組む。
財務責任者（ＣＦＯ：チーフ・フィナンシャル・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 松原　和恵「専従」 （出身組織名） （株）JTB	平成５年より任意団体上松町観光協会に勤務。国内旅行商品取扱資格者。旅行商品の販売・精算のほか経理一般を担当。
各部門（例：プロモーション）の責任者（専門人材）	（氏名） 池井　宏巳「専従」 （出身組織名）	元ねざめホテル支配人。上松観光開発（有）の勤務時代から観光事業部長を務め、企画・営業・販

様式１

<table>
<tr><td>※各部門責任者のうち専従の者については、氏名の右横に「専従」と記入すること</td><td>上松観光開発（有）</td><td>売に従事。赤沢自然休養林の運営指定管理者選定に伴い、上松町観光協会に所属。</td></tr>
<tr><td>各部門（例：旅行商品の造成･販売）の責任者（専門人材）</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>連携する地方公共団体の担当部署名及び役割</td><td colspan="2">長野県上松町　産業観光課商工観光係
（行政の観光及び商工振興部門を担当。当協会の公的事業・行政事業の委託、事業連携を行う）</td></tr>
<tr><td>連携する事業者名及び役割</td><td colspan="2">（一社）木曽おんたけ観光局　（隣接する地域づくり法人として事業連携）
長野県立木曽病院　（森林浴・森林セラピー事業の医療面で連携）
おんたけ交通　（二次交通、旅行商品送迎等）
NPO 木曽ひのきの森　（地元観光ガイド組織。人材提供、人材育成共同事業）
上松町商工会　（地元商店会との事業連携）
長野県通訳ガイドネットワーク（インバウンド観光におけるガイド人材）</td></tr>
<tr><td>官民･産業間･地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</td><td colspan="2">【該当する登録要件】②
（概要）観光協会の理事として上松町内の他業種経営者が参画、地元金融機関を監査に、首長・議会議長・商工会長を顧問に迎え、上松町の観光事業に関する協議を官民合同で検討、決定する組織とした。
また上松町の中・長期ビジョン策定における連携を実現するため、地域再生推進法人の認定を取得済み。</td></tr>
<tr><td>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</td><td colspan="2">理事会・役員会だけでなく、所属会員や事業者による事業情報共有を定期的に開催。
また地元住民が参加できる人材育成や学習会を、長野県・および木曽広域連合と連携して開催中。これまでに住民を対象とした英会話学習会、星空観察会、ホタル保護活動及び鑑賞会などの開催実績あり。</td></tr>
<tr><td>法人のこれまでの活動実績</td><td colspan="2">【活動の概要】
<table>
<tr><th>事業</th><th>実施概要</th></tr>
<tr><td>情報発信・プロモーション</td><td>・森林セラピー事業
上松町が取得した「森林セラピー基地認定」と森林浴発祥の地のブランドを活用し、国内外への宣伝活動を展開。特に令和４年１１月には、医療関係者を対象とした森林医学セミナーを開催した。
コロナ禍を経て森林浴に関する問い合わせは増加しており、国内の企業健保および海外向けの森林浴レクチャー映像（英語字幕版）を制作オーストラリアやドイツへ提供した。令和５年にはインバウンドを対象にしたプロモーション動画を作成した。
・令和４年から地域に残る森林鉄道に関わる資源を後世に伝えるアーカイブ事業を住民と共に進めている。</td></tr>
<tr><td>受入環境の整備</td><td>・平成２９年～３０年　農泊推進事業
農林水産省の交付金を活用し、森林を活用した滞在プランの充実を促進。滞在メニューの拡充のほか、多国語のコミュ</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

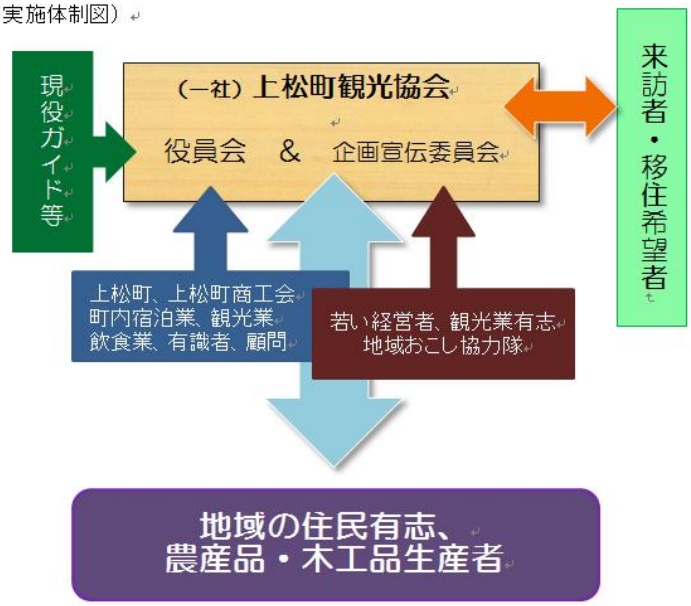
<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td></td><td>ニケーションシート、マップ等を作成。また日本遺産を用いた旅行商品の研修会を、関西地区の旅行企画担当・および添乗員を対象に実施。
・令和２年～　「ガイド養成講座」
　木曽広域連合と連携して開催、町内外からの人材養成を進めている。
　また、森林セラピーガイドの講座を受講し、資格取得者の拡充に努めている。
・令和４年度～　「インバウンド周遊促進事業」
　アフターコロナのインバウンド受け入れのための人材育成に向けて講習会を定期的に開催している。
・令和６年度、上松町観光まちづくり計画策定で連携した。</td></tr>
<tr><td>観光資源の磨き上げ</td><td>・森林浴の健康増進等に関する調査研究事業
　平成２５年より、赤沢自然休養林を核にした森林浴・森林セラピーのエビデンス取得を目的として、日本医科大学や千葉大学・長野県立木曽病院と連携。２５～２７年に循環器系、２８～３０年に神経系、３１年からは内分泌系の生理実験調査を実施。英語論文が国内外に提供され、林野庁森林サービス産業や各地の森林セラピー事業の背景を支える。
・令和２年度　林野庁森林サービス産業「モデル地域」
　林野庁「森林サービス産業」の第１期モデル地域として、働き盛りの健康づくりと森林セラピーの活用について調査研究。森林を訪問・滞在することで、眠りの質やメンタルヘルスの改善効果を立証した。地元企業と連携しモニターツアーにより健康増進活用への本格的な足掛かりを得た。
　インバウンド需要に対応し、地元食材を使ったお弁当の開発などを進めており、トータルでの着地型観光の整備を進めている。</td></tr>
</table>

【定量的な評価】
　ＫＰＩ目標値としている宿泊者人数はコロナ禍の影響を受けて当初の目標値を大きく割り込んでいるが、徐々に回復の傾向にある。事業費が国や県の助成金・交付金活用に基づいていたため、継続的な活動に不安が残るが、令和２年度より、指定管理者制度による観光地・観光施設運営の収益事業を得たことで、より継続的・積極的な事業展開を目指している。</td></tr>
<tr><td>実施体制
※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。</td><td>【実施体制の概要】
　上松町観光協会を核とした事業母体に、専門分野でガイド派遣、宿泊施設連携、飲食店連携、住民有志や企業が参画する。小さい町なので、複雑な組織を形成せずシンプルな合意形成の形を実現する。

【実施体制図】</td></tr>
</table>

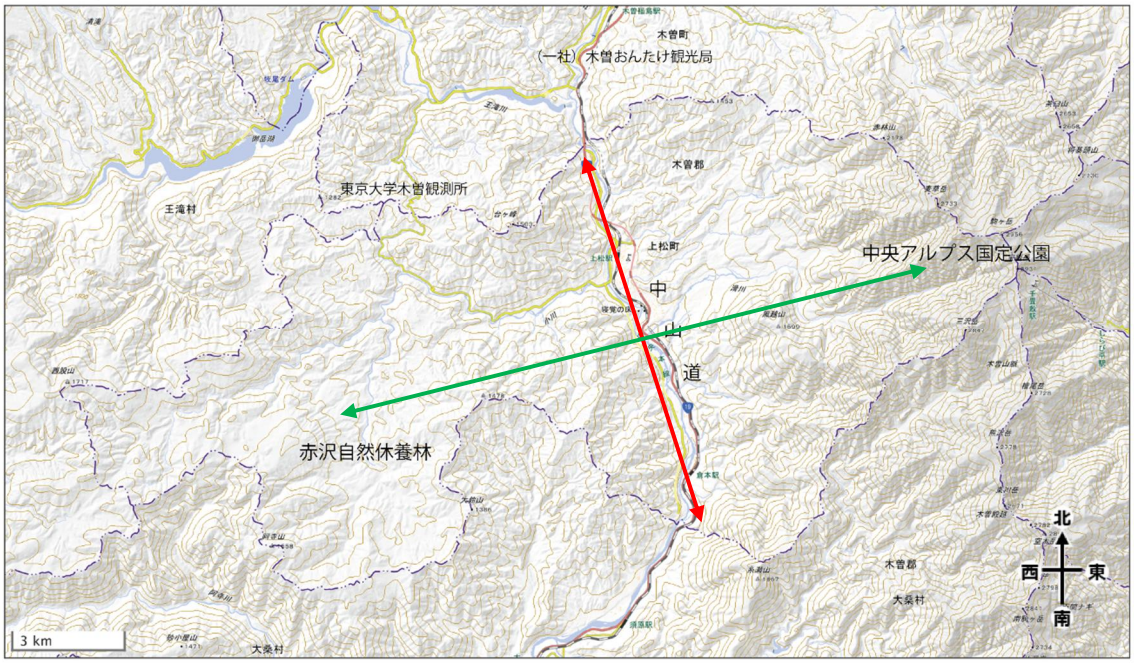
様式１

（実施体制図）



２．観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



【区域設定の考え方】

地域 DMO の区分から、上松町を中心とした事業区域を設定。

町の中央を南北に走る中山道を中心にした文化体験エリア、町の東西に位置する中央アルプス国定公園および赤沢自然休養林をむすぶ自然体験エリアを軸にした事業展開を行う。

また連携事業として、隣接する（一社）木曽おんたけ観光局とはツアー造成・東京大学木曽観測所を起点とした事業連携を、中央アルプス国定公園をはさんで伊那谷とは伊那路木曽路広域観光連携会議での事業連携を展開している。

【観光客の実態等】

観光利用客の実数は年間約２３万人と、未だ低迷であるが回復途上にある。御嶽山噴火災害以降、貸切バス法規制強化、新型コロナウィルス感染拡大の影響による複数の事業者が撤退しており、団体客を中心とした既存観光システムの維持は極めて困難。地域のコンセプトに合致した個人客への訴求力を構築している。個人客・インバウンド向けの問い合わせの増加に伴い対応するコンテンツや２次交通の再構築を広域的な見地から検討しており、当協会も参画している。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

上松町のランドマークとして、寝覚の床を最大の立寄所として活用。情報の発信地、食事処の強化を推進する。東部の中央アルプス国定公園は、登山者を中心としたスポーツエリアとし、西部の国有林・赤沢自然休養林は森林浴を中心とした穏やかな滞在エリアと位置付ける。

東西の自然体験エリアへのアクセスは、上松駅前および寝覚の床を起点として設定。

森林浴発祥の地として１９８２年から続く「森林浴大会」を継続して開催、また木曽森林鉄道を活用した写真撮影会も好評を得ており、スポンサーとの提携を強化しながら継続を目指す。

赤沢森林鉄道の再生事業を計画・実施。歴史的遺物の保全活用を行い、「鉄道分野」や歴史の観点で興味を持つ層を取り込むためも魅力向上を図る。

また、近年盛り上がりを見せるサイクルスポーツについてもハード・ソフト両面の観点で町単独の事業、広域での地域連携事業の２面から検討中。

地元スポーツクラブ「木曽ひのきっ子ゆうゆうクラブ」による、木曽川ラフティングや地域おこし協力隊によるバレルサウナ体験など新たな活動も始まっており、観光客の滞在プログラムに組込みをしている。

２０年に一度挙行される伊勢神宮式年遷宮において、ここ１００年ほど町内から御用材が産出されており、御神木祭として開催される祭礼・奉祝行事を地域振興に活用する。（令和７年６月に開催）

（ほか地域祭礼など）

一子相伝の 舞台、 駒ヶ岳神社「 太々神楽」…国選択無形民俗文化財

陰陽師 安倍晴明の幼少期を描いた獅子狂言「葛の葉」を伝承する小川若宮神社

獅子狂言と歌舞伎を伝承する「大宮神社」「諏訪神社～若宮八幡宮」

赤沢自然休養林の自然体験イベント「トムソーヤクラブ村木曽・上松」

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

御嶽山噴火災害以降、宿泊施設の撤退が相次いでおり、町第３セクターの「ねざめホテル」、および個人経営の旅館・民宿が経営を続けている。収容力は全２４０名（山小屋を除く）と最盛期に比して半減。既に旅館組合や民宿協会は休眠状態となっており、当観光協会が連絡組織としての役割を担う。現在は森林浴を中心にした個人客の案内が中心となっており、今後は保養やテレワーク長期滞在など新たなニーズの開拓が必要。

一方で町内に料理を中心に固定客を獲得した民宿があり、健全な経営モデルとして確立。また近隣町には地域おこし協力隊の移住からゲストハウス経営、既に３軒まで拡充した経営者もあり、参考としたい。

上松駅周辺　　旅館１軒　５０名

中山道沿線　　ホテル１軒、旅館１軒　１２０名

赤沢方面　　民宿２軒　７０名

中央アルプス　山小屋３軒、無人避難小屋１棟　２８０名

【利便性：区域までの交通、域内交通】

山間地にあり、比較的利便性は悪い。ＪＲ東海中央線が通過しており、各駅停車駅が２つ存在。特急列車はひとつ隣の木曽福島駅に停車しており、直通の路線バスを上松町コミュニティ交通として運行中。町内の交通網は路線バスおよびタクシーを使用。

マイカーでの移動は、国道１９号線から県道・町道を利用。インターチェンジまでは南北とも６０分を要し、高齢化により山間地の運転を敬遠する客層が増加することが見込まれる。

国道１９号線 名古屋から　１３１　ｋｍ、長野から１２８ｋｍ

最寄りのインターチェンジ　中央道中津川ＩＣ、伊那ＩＣから各６０分
ＪＲ東海・中央線 上松駅、倉本駅
地域路線バス 国道１９号線 倉本線
観光路線バス　赤沢線

【外国人観光客への対応】

近年は森林浴が海外でも「Shinrin-yoku」として紹介され、問い合わせが増加した。新型コロナウィルス感染拡大前を上回るペースで来訪客数が増加している。上松町の住民やサービス事業者を対象とした英会話教室などを開催し、受け入れ環境の充実を進めている。

案内業務に役立てるため、日本政府観光局 JNTO 認定の外国人案内所のカテゴリー１を取得、英語版観光案内を中心に情報提供を行っている。

また長野県の通訳ガイドネットワークと連携、森林セラピーガイド資格およびセラピスト資格の取得を持つガイドの新規受け入れに努めている。インバウンド需要回復後の海外観光客に対するＨＰ案内を充実させる。

伊那谷、木曽谷の広域で連携して情報交換を行い、コンサルを含め海外向けトラベルフェアへの出展やツアー造成なども行っている。

上松町観光協会 事務局職員専属 旅行業取扱資格者が英語通訳資格所持
上松町観光情報サイト 外国語表記 （英文、中繁文、中簡文、ハングル）
上松町総合観光パンフレット 英語版
赤沢自然休養林パンフレット 英語版

３．各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	旅行客の消費実態等を把握するため。	上松町役場と連携、各事業者の実績を調査し長野県観光地利用者統計に反映。
延べ宿泊者数	旅行客の消費実態等を把握するため。	上松町役場と連携、各事業者の実績を調査し長野県観光地利用者統計に反映。
来訪者満足度	観光地でのサービス内容満足度、来訪地域、客層を把握するため。	観光地にアンケート用紙を設置、回答ボックスにて回収。Google ビジネスプロフィールマネージャーの各施設等のクチコミ評価を活用。
リピーター率	観光地でのサービス内容満足度、来訪地域、客層を把握するため。	観光地にアンケート用紙を設置、回答ボックスにて回収。またイベントごとにアンケートを回収。
ＷＥＢサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	Google アナリティクスを導入して収集。
住民満足度	観光振興に対する地域住民の理解度を測るため。	上松町役場企画財政課の総合計画・実施計画に伴う住民意向調査と連携し、実態を調査。
マイカー来訪地域調査	観光地での来訪傾向把握のため。	コロナ禍の令和２年度より開始。駐車場係員によるナンバー記録。
森の健康相談室	森林浴のニーズ、利用者の年齢層や傾向を把握するため。	森林浴健康相談日誌から、利用者の傾向を集計。

様式１

４．戦略

（１）地域における観光を取り巻く背景

※地域経済、社会等の状況を踏まえた観光地域づくりの背景

上松町は木材産業により大正時代～昭和５０年代まで栄えたが、林業の衰退とともに産業は下降線をたどり、最盛期に 14,000 人を数えた人口も 4,000 人へと低下した。過疎高齢化対策が急がれると同時に、衰退した産業の復興が課題となる。

伐採・販売に基づいた林業は衰退したが、豊かな森林資源や中山道文化は色濃く残っており、これら観光資源を磨き上げ、来訪者増加を図り経済効果につなげたい。

だが、旅行産業を専門とする企業は町内になく、旅行業に抵触する事業も行政で展開するには限界が見えた。

そのため任意団体の観光協会を、官民の連携で法人化、町からの人材・財政支援を行いつつ旅行業を備えた実行的組織として昇格・設立した。（コロナ禍による財政悪化により一時的に旅行業資格を取りやめたが来年度以降再取得予定）

地域資源や人材を活用しつつ、民間のニーズや行政のビジョンに基づいた収益事業を展開し、地域経済に貢献することを目指す。

（２）地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	強み（Strengths） ●赤沢自然休養林 …「木１本 首ひとつ」として江戸時代から保護された、国内でも稀有な天然美林。森林浴発祥の地、医学的根拠のある健康増進効果。 ●木曽森林鉄道 …日本近代化遺産、国内最後の森林鉄道。樹齢３００年以上の木曽ひのき天然林を走る、爽やかさ最高のロケーション。 ●多種多様な伝統芸能 …１つの町としては異例な、様々な伝統芸能を楽しめる祭礼の数々。 ●御嶽海関の出身地 …相撲ファンに限られるものの、三役経験者の力士として人気。	弱み（Weaknesses） ●アクセスの悪さ …国道で交通事故があれば孤立。う回路が少なく、バス、列車とも極端に本数が少ない。 ●旧中山道宿場の建築物が乏しい …木材産地の宿命か、昭和２５年の大火で町中心部の大半が焼失。復興に伴って、木曽ならではの宿場跡が近代化された。このような歴史のためか、宿場が人気の木曽地域において、上松町の中山道観光は冷めた雰囲気が漂う。 ●知名度の低さ …木曽全域に共通するが、知名度・ステイタス性に乏しい。特に「高山市のある飛騨と同じ谷」という認識が都市部に多い。 ●食の特産が少ない …ほお葉巻き、五平餅などの郷土料理はあるが、多くが木曽地域全域に共通しており、上松町ならではのブランドがない。
外部環境	機会（Opportunity） ●森林セラピーにおける、医学的な森林浴効果の実証 …千葉大学や日本医科大学を中心に、森林浴の健康増進効果が継続調査されている。英語論文も発表され、欧米、インドなどでも紹介	脅威（Threat） ●アクセスの悪さに伴う、貸切バスツアーの販売価格上昇 …法規制の影響もあり、特に 関東圏からの日帰りツアーは壊滅。宿泊を伴う貸切バスツアー商品は相場価格が上昇し、上高地など著

	された。予防医療を主体とする国に関心が高い。 ●日本遺産「木曽路」 …上松町には宿場跡の気配が薄く、木曽路の原風景に乏しかったが、日本遺産のストーリーの中で「森林保護、木曽林業の原点であり、林業近代化の拠点」としての文化が明確にされた。上松町ならではの、他の宿場と競合しない歴史を紹介できる。 ●えごま健康食品の定着 …平成２７年初頭、テレビ番組でえごまの健康増進効果が放映されたのを機に、一気にブームが到来。流通量の少ない国産の原料、特に上松産のえごまは成分も良好で評価が高い。例年、バックオーダーを抱える。 最近では観光地でもえごま料理の提供を開始し、好評。 ●町で企業誘致した養豚企業が稼働し、豚加工品の特産品の活用が期待される。	名な観光地との競合が発生している。従来までの価格によるメリットは消滅した。 復興には時間を要する。 ●周囲に増え始めた自然体験観光 …森林セラピー基地は全国に６０箇所を超え、差別化が必須となっている。また渓流遊びなどの競合ポイントが周辺地域にあり、夏休みなど観光客の分散化が激しい。特にインターネットの評価・流行の影響が大きい。 ●急速に進む過疎高齢化 …国内、長野県の平均を大きく上回るペースで、過疎化と高齢化が進行中。観光産業だけでなく、様々な産業の担い手が失われている。 ●地球温暖化による気候変動により、災害が起きやすくなっており屋外滞在コンテンツが天候により左右される。

※上記に加え、ＰＥＳＴ分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

（３）ターゲット

〇第１ターゲット層
　癒しや健康志向に関心の高い国内外のアクティブ層

〇選定の理由
　新型コロナウイルス感染症により、生活様式が依然と大きく変わり、個人または小規模グループで行動する傾向が強くなってきた。年齢層を問わず、旅行に関心が高く、健康志向や地域ならではの魅力を体験するコンテンツが注目されるようになってきており、上松町の強みである医学的な研究が進んでいる最先端の森林浴を基軸としたウエルネスプランや地域ならではの体験プランを提供できる。

〇取組方針
　森林浴の 医学的根拠への共感・リラックスの実感を引き出せる滞在プランを基軸とし、えごまや新鮮な山の幸を用いた健康食を活用して宿泊形態を組み立てる。
　ワンディハイク、滝めぐり、写真撮影会などの滞在コンテンツを充実させ、ガイドやコーディネーターの育成を図る。
　体験コンテンツを SNS を活用して発信する。
　既にニーズのあるオーストラリア等、インバウンド観光の誘客素材として高付加価値な観光サービス構築に活用する。

〇ターゲット層
　予防医療と日本文化に関心の高い外国人

〇選定の理由
　森林浴の健康増進効果が海外で発表され、その研究フィールドとして「森林浴発祥の地・赤沢自然休養林」の名前が、徐々に広まりつつある。特に皆保険が整備されていない海外では関心度が高く、赤沢を目指して渡航する外国人からの相談が多く寄せられている。

〇取組方針

上松町在住の外国人や、これまでに案内実績のある通訳案内士に協力を仰ぎ、観光事業者への英会話講座を開催。またインバウンド観光の先進事例に学び、観光事業者の外国人アレルギーを払拭することから努める。提供する観光メニューは日本人の日常生活をテーマに、木曽ならではの田舎らしい温かさを伝えられるよう工夫する。サービス提供の人材は町内外に広く求め、通訳スキルを持つ組織とのネットワークを構築する。
○ターゲット層 歴史文化に興味のある学生～中高年層
○選定の理由 日本遺産の認定を機に、上松町の歴史文化に強力な説得力が得られた。徐々に散策客が増えてきており、上松町内はもとより、木曽地域全体で連携して中山道の散策マーケットを構築していくことにより、広域連携での産業を興す価値が十分にある。 ○取組方針 日本遺産のストーリーを抜粋しつつ、上松町内の過去を紹介できる史書資料を基に、タイムスリップ感の 豊かな 中山道～近代の探訪プランを研究する。 Ｒ４年に民間主導の専門ガイド組織が立ち上がったので、協力して運営体制を図っている。 木曽地域全体では広域行政が中心となり、ガイドの育成と一般に向けた学習会を開催している。

（４）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	コンセプトの「森林浴発祥の地～ひのきの里　上松町～」はこれまでの上松町のメインテーマを用いるが、やや抽象的だった部分を上松町観光まちづくり計画で明確化し、来訪者・地域住民それぞれに森の郷の豊さを実感できることを目標とする。 特産品、食事などに自然由来の地産地消を進め、健康増進の実感を伴うことを目指す。
②コンセプトの考え方	木曽谷の人々は、豊富な森林資源を誇りとしつつ生活の基盤を築いてきた。一旦、皆伐の危機を迎えたが、先人の忍耐と努力で現代に天然美林が復活。その森林に根差す健康増進効果も明らかにされた。 このコンセプトは日本遺産にも認定されており、都市型生活が普及した現代人に、先人が残した恩恵と後世に伝える必要性を伝播させていきたい。

５．関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	理事会（随時）　役員会（年３～４回） 観光事業者向け年次総会（通常、年１回） ガイド関係者との連絡協議（毎月） 行政・県立木曽病院との連絡協議（随時）

様式１

	食堂関係者との連絡協議（随時）
	理事会と役員会は、経営や運営方針を検討、立案。 年次総会では、事業者向けに事業説明を実施。各事業における協賛者とは随時調整。 ガイド関係者との連絡協議では、現場での危険個所確認や情報共有、国の施策など活用を検討。 行政とは次年度事業や委託事業の詳細、予算編成の検討。 県立木曽病院とは専門的な森林浴の実験・提供サービスの検討。 食堂関係者とは地元食材を活かした旬の弁当メニューの構築とインバウンドの受入れに向けた学習会などの開催、統一した受入れの組織化についての検討。
観光客に提供するサービスについて、維持･向上・評価する仕組みや体制の構築	森林ガイドの研修として、町と共同で養成講座を実施。 中山道ガイド養成については、学芸員と連携した資料・教材の作成を進めている。 宿泊施設は高齢化による経営難に直面しており、町とともに事業承継を含めた振興策を検討。 上松町内最大の観光客立寄ポイントである「寝覚の床」の拠点整備について、令和３年度から上松町と将来計画を協働策定している。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信･プロモーション	観光客との連絡窓口を、上松町観光協会に一本化。電話・メールとも同一事務局で処理。 観光協会サイトもリモート更新を可能にし、逐一の情報更新を行う。 町のキャラクターを用いたツイッターアカウント運営や、フェイスブックによる情報連携を開始し、順調な運営状況を実現した。 グーグルビジネスを活用し、旬な情報の発信と口コミによる宣伝を行う。

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

様式１

６．ＫＰＩ（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後３年間における明確な数値目標を記入すること。
※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去３年間の実績も記入すること。

（１）必須ＫＰＩ

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●旅行消費額（百万円）	目標	347	565	260	290	320	350
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	341	237	274			
		（ ）	（ ）	（ ）			
●延べ宿泊者数（千人）	目標	18.36	22.2	21.0	24.0	25.0	27.0
		（ ）	（ ）	（1）	（1）	（1）	（1）
	実績	13.4	19.0	23.3			
		(0)	（1）	（1）			
●来訪者満足度（%）	目標	88.0	89.0	86.0	87.0	87.0	87.0
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	89.0	85.3	86.2			
		（ ）	（ ）	（ ）			
●リピーター率（%）	目標	22.0	40.0	35.0	27.0	27.0	27.0
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	40.0	34.9	26.5			
		（ ）	（ ）	（ ）			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】
目標値は上松町の行政目標と整合性を持つものとし、ベースとして長野県観光地利用者統計、上松町総合戦略を基準とする。さらに上松町観光協会直営事業の観光事業売上額を参照。令和３年度に策定された第６次上松町総合計画に基づいて、目標値を設定。

【設定にあたっての考え方】
●旅行消費額
長野県観光地利用者統計の調査により、上松町が民間の各宿泊施設・観光地の利用者と売上額を集計する。さらに上松町観光協会で運営する赤沢森林鉄道、駐車場、食堂施設売上を参照。将来目標の設定は、上松町第６次総合計画に基づく。

●延べ宿泊者数
旅行消費額と同じく、長野県観光地利用者統計の調査による上松町の集計を用いる。

●来訪者満足度
平成３０年度までは長野県観光機構の木曽路観光動向調査に準じてアンケート調査を実施。重複して上松町観光協会でも、観光地におけるアンケートを実施し、令和元年度からは当協会の数値を計上。数値は高水準で推移しているが、個別の観光施設や体験メニューではご意見も頂戴するため重視している。

なお、令和４年度からはＧｏｏｇｌｅビジネスプロフィールマネージャーの各施設等のクチコミ評価を採用している。令和５年度以降、評価人数は増加し、評価も幅広いコメントをいただいている。

●リピーター率
令和５年度より観光地で催される各イベントアンケートの来訪回数調査を用いる。

（２）その他の目標

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●ガイド依頼件数（件）	目標	120	120	120	70	70	70
		（　）	（　）	（　）	(15)	(15)	(15)
	実績	40	44	58			
		（　）	（　）	(11)			
●森林インバウンド来訪客数（人）	目標	100	200	800	700	700	700
		(100)	(200)	(800)	(700)	(700)	(700)
	実績	0	776	639			
		(0)	(776)	(639)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値
※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】
地域ＤＭＯとして個別の指標を設定し、きめ細かな観光動向を収集していく。森林インバウンド来訪客数は「Shinrin-yoku」の世界的普及の指針とするため、町や県のインバウンド統計とは別に森林浴体験を目的として訪れた人数を集計する。

【設定にあたっての考え方】
●ガイド依頼件数
中山道および赤沢自然休養林の、ガイド依頼件数を集計。体験メニュー参加人数を把握し、ニーズを検証することで、滞在プランの充実をはかる。なお数値だけでなく、案内の内容（歴史、自然観察、健康志向など）を記録し、動向を把握する。

●森林インバウンド来訪客数
研究者やセラピストを中心に森林浴への問い合わせが増加、ＢＢＣやスイス国営放送など、取材来訪も相次いでいることから、具体的な数値を把握する。赤沢自然休養林の駐車場料金所で集計し、可能な限り国籍も把握。インバウンドマーケティングの参考とする。

様式１

７．活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後３年間について、計画年度毎に（１）収入、（２）支出を記入すること。
※現に活動している法人にあっては、過去３年間の実績も記入すること。

（１）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）	
2022（Ｒ４） 年度	（円） 58,966,380		（円）
		【都道府県からの補助金】	680,000
		【公益事業受託】	1,578,309
		【指定管理者収益事業】	14,464,000
		【収益事業】	29,122,864
		【会員会費】	713,000
		【事業負担金】	3,156,302
		【ほか営業外収益】	3,002,372
		【短期借入運転資金】	4,206,002
		【創業用長期借入金】	2,043,431
2023（Ｒ５） 年度	（円） 62,466,442		（円）
		【都道府県からの補助金】	1,412,000
		【公益事業受託】	1,788,251
		【指定管理者収益事業】	19,259,854
		【収益事業】	33,345,383
		【会員会費】	702,000
		【事業負担金】	213,029
		【ほか営業外収益】	179,123
		【短期借入運転資金】	4,498,455
		【創業用長期借入金】	1,068,347
2024（Ｒ６） 年度	（円） 71,666,988		（円）
		【国からの補助金】	90,000
		【都道府県からの補助金】	1,723,000
		【公益事業受託】	2,291,724
		【指定管理者収益事業】	23,265,458
		【収益事業】	39,810,780
		【会員会費】	686,000
		【事業負担金】	0
		【ほか営業外収益】	189,160
		【短期借入運転資金】	3,110,866
		【創業用長期借入金】	500,000
2025（Ｒ７） 年度	（円） 72,662,000		（円）
		【都道府県からの補助金】	4,991,000
		【公益事業受託】	2,853,000
		【指定管理者収益事業】	25,888,000
		【収益事業】	35,024,000
		【会員会費】	686,000
		【事業負担金】	0
		【ほか営業外収益】	20,000
		【短期借入運転資金】	2,200,000
		【創業用長期借入金】	1,000,000

様式１

2026（Ｒ８） 年度	（円） 81,228,000	（円） 【都道府県からの補助金】 5,739,000 【公益事業受託】 3,281,000 【指定管理者収益事業】 29,771,000 【収益事業】 40,278,000 【会員会費】 686,000 【事業負担金】 0 【ほか営業外収益】 23,000 【短期借入運転資金】 1,450,000 【創業用長期借入金】 0
2027（Ｒ９） 年度	（円） 92,392,000	（円） 【都道府県からの補助金】 6,600,000 【公益事業受託】 3,773,000 【指定管理者収益事業】 34,237,000 【収益事業】 46,320,000 【会員会費】 686,000 【事業負担金】 0 【ほか営業外収益】 26,000 【短期借入運転資金】 750,000 【創業用長期借入金】 0

（２）支出

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）
2022（Ｒ４） 年度	（円） 58,640,764	（円） 【一般管理費】 50,930,580 【情報発信・プロモーション】 1,239,640 【受入環境整備等の着地整備】 2,124,189 【コンテンツ開発（観光資源の磨き上げ）】 1,557,590 【マーケティング（市場調査、ブランド戦略等）】 700,417 【観光イベントの開催費】 2,088,348
2023（Ｒ５） 年度	（円） 62,459,286	（円） 【一般管理費】 54,588,599 【情報発信・プロモーション】 1,586,984 【受入環境整備等の着地整備】 1,241,325 【コンテンツ開発（観光資源の磨き上げ）】 1,766,383 【マーケティング（市場調査、ブランド戦略等）】 548,030 【観光イベントの開催費】 2,727,965
2024（Ｒ６） 年度	（円） 71,576,168	（円） 【一般管理費】 63,662,678 【情報発信・プロモーション】 825,640 【受入環境整備等の着地整備】 727,660 【コンテンツ開発（観光資源の磨き上げ）】 1,533,074 【マーケティング（市場調査、ブランド戦略等）】 1,153,072 【観光イベントの開催費】 3,674,044

様式１

2025（Ｒ７） 年度	（円） 72,662,000	（円） 【一般管理費】 60,027,000 【情報発信・プロモーション】 1,600,000 【受入環境整備等の着地整備】 1,993,552 【コンテンツ開発（観光資源の磨き上げ）】 6,090,702 【マーケティング（市場調査、ブランド戦略等）】 450,000 【観光イベントの開催費】 2,500,746
2026（Ｒ８） 年度	（円） 81,228,000	（円） 【一般管理費】 66,697,000 【情報発信・プロモーション】 1,840,000 【受入環境整備等の着地整備】 2,293,000 【コンテンツ開発（観光資源の磨き上げ）】 7,004,000 【マーケティング（市場調査、ブランド戦略等）】 518,000 【観光イベントの開催費】 2,876,000
2027（Ｒ９） 年度	（円） 92,392,000	（円） 【一般管理費】 75,681,000 【情報発信・プロモーション】 2,116,000 【受入環境整備等の着地整備】 2,637,000 【コンテンツ開発（観光資源の磨き上げ）】 8,055,000 【マーケティング（市場調査、ブランド戦略等）】 596,000 【観光イベントの開催費】 3,307,000

（３）自律的･継続的な活動に向けた運営資金確保の取組･方針

上松町において宿泊税の導入は未検討。

当観光協会では、旅行業に基づいたソフトウェア事業（上松町が主催してきた森林浴大会など）を行政より引き継ぎ実施、収益事業化を行った。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、旅行業の更新ができなかったため、再取得に向けて活動している。

同じく森林セラピー事業、観光案内所運営事業などを上松町より受託し、雇用人数を確保。

また飯田・伊那地域と連携で展開する広域連携コンテンツの造成により、インバウンドを含めた観光客の確保による収益を図っていく。

自主財源として、令和２年度より上松町の指定管理者制度に基づき赤沢自然休養林の運営事業を担っている。赤沢森林鉄道、食堂施設などの収益をもとに、より幅広く観光を核とした地域振興を展開している。

例年であれば３千万前後の安定した収益となっていたが、令和２年の被災や新型コロナウィルス感染拡大の継続の影響で利用者は大きく減少しており、未だ回復途中であるが、上松町や民間産業と連携し、観光復興とともに新たな顧客開拓を目指し、目標値・事業計画などを再策定して活動中。豊かな森林資源と中山道文化を核に、観光産業化を推進する。

令和５年度より、上松町が締結した「観光戦略策定・観光地域づくり包括連携協定（上松町・株式会社ＮＯＴＥ・株式会社ＫＡＮＳＯテクノス）」に基づき、官民協働による長期的観光計画の策定と、収益事業を伴う新たな事業展開を研究している。今後は宿泊と体験をセットとした高付加価値・高単価の滞在プランサービス提供による経済効果を目指す。

様式１

８．観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

上松町は、一般社団法人　上松町観光協会を当該都道府県及び市町村における「地域ＤＭＯ」として登録したいので、一般社団法人　上松町観光協会とともに申請します。

長野県木曽郡上松町
上松町長　　村田　広司

９．マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携ＤＭＯ（県単位以外）や地域ＤＭＯと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

【他の地域連携ＤＭＯや地域ＤＭＯとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った（行っている）か】

エリアが重複する（一社）長野県観光機構とは、定期的なミーティングや事業連携を実施。

【区域が重複する背景】

（一社）上松町観光協会＝上松町主体の地域振興を目的とした地域ＤＭＯ

（一社）長野県観光機構＝長野県全域の地域振興を目的とした地域連携ＤＭＯで、上松町を含む。

【重複区域における、それぞれの DMO の役割分担について】

（一社）上松町観光協会では、上松町の観光資源に特化した地域色の強い観光イベントや旅行商品を展開。

（一社）長野県観光機構では、県全体に加え伊那谷～木曽谷の広域エリア、木曽谷縦断の圏域エリアをテーマとした観光イベントや旅行商品を展開。上松町内の観光イベントや旅行商品については、（一社）上松町観光協会と協議して後方支援を行う。

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】

（一社）上松町観光協会の規模では宣伝や広域的滞在プランの造成に限界があるが、長野県全域を取りまとめる（一社）長野県観光機構と連携することで、我々が持つ課題の多くをリカバーしていただける。また効果的な支援制度を数多く提供していただき、バックアップも手厚い。更に、リニア中央新幹線の開通を視野に入れた長野県南部（伊那谷・木曽谷）の「長野県リニアバレー構想」に基づき、伊那・木曽両地域のコーディネートを（一）長野県観光機構が担い、旅行商品を造成するプロモーション部会に当協会が参加して、精力的に活動している。

様式１

１０．記入担当者連絡先

担当者氏名	伊藤　健次
担当部署名（役職）	事務局次長
郵便番号	399-5601
所在地	長野県木曽郡上松町大字上松 159-3
電話番号（直通）	0264-52-1133
ＦＡＸ番号	0264-52-4180
Ｅ－ｍａｉｌ	hinoki@avis.ne.jp

１１．関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県･市町村名	長野県上松町
担当者氏名	見浦　崇
担当部署名（役職）	産業観光課課長補佐
郵便番号	399-5601
所在地	長野県木曽郡上松町大字上松 159-4
電話番号（直通）	0264-52-4804
ＦＡＸ番号	0264-52-1038
Ｅ－ｍａｉｌ	syoukan@town.agematsu.nagano.jp

都道府県･市町村名	
担当者氏名	
担当部署名（役職）	
郵便番号	
所在地	
電話番号（直通）	
ＦＡＸ番号	
Ｅ－ｍａｉｌ	

（登録）【地域DMO】一般社団法人　上松町観光協会

様式２

記入日：　令和7年7月31日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】　長野県　上松町
【設立時期】　令和3年11月4日
【設立経緯】　③区域の観光協会がDMOに移行
【代表者】　　代表理事　羽毛田　盛雄
【マーケティング責任者（CMO）】　企画リーダー　本田　真士
【財務責任者（CFO）】　事務局長　旅行商品取扱資格者　松原　和恵
【職員数】　38人（常勤6人（正職員5人、出向等1人）、非常勤32人）
【主な収入】
　収益事業　40百万円、指定管理者収益事業　23百万円
　　（令和6年度決算）
【総支出】
　事業費　8百万円、一般管理費　64百万円（令和6年度決算）
【連携する主な事業者】　（一社）木曽おんたけ観光局、
　長野県立木曽病院、おんたけ交通、NPO木曽ひのきの森、
　上松町商工会、長野県通訳ガイドネットワーク

KPI（実績・目標）

※（　）内は外国人に関するもの。

項目		2022（R4）年度	2023（R5）年度	2024（R6）年度	2025（R7）年度	2026（R8）年度	2027（R9）年度
旅行消費額（百万円）	目標	347（　）	565（　）	260（　）	290（　）	320（　）	350（　）
	実績	341（　）	237（　）	274（　）	—	—	—
延べ宿泊者数（千人）	目標	18.36（　）	22.2（　）	21.0（1）	24.0（1）	25.0（1）	27.0（1）
	実績	13.4（0）	19.0（1）	23.3（1）	—	—	—
来訪者満足度（%）	目標	88.0（　）	89.0（　）	86.0（　）	87.0（　）	87.0（　）	87.0（　）
	実績	89.0（　）	85.3（　）	86.2（　）	—	—	—
リピーター率（%）	目標	22.0（　）	40.0（　）	35.0（　）	27.0（　）	27.0（　）	27.0（　）
	実績	40.0（　）	34.9（　）	26.5（　）	—	—	—

戦略

【主なターゲット】
　旅行に関心の高いアクティブ層
【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
　森林浴の 医学的根拠への共感・リラックスの実感を引き出せる滞在プランを基軸とし、えごまや新鮮な山の幸を用いた健康食を活用して宿泊形態を組み立て、ワンデイハイクや写真撮影会等の滞在コンテンツの充実化とガイドやコーディネーター育成を図る。
【観光地域づくりのコンセプト】
　観光協会役員会を、多様な民間事業者、商工会、行政、町議会、町内金融機関により編成し、観光事業に関する協議を官民合同で検討、決定する。

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】
・森林浴の健康増進等に関する調査研究事業
…大学や医療機関と連携し、森林浴・森林セラピーのエビデンス取得と保養メニューの研究を推進。

【受入環境整備】
・平成29年～30年　農泊推進事業
…農林水産省の交付金を活用し、森林を活用した滞在プランの充実を促進。ガイド育成、インバウンド対策、国内旅行研修等を実施。

【情報発信・プロモーション】
・森林セラピー事業
…上松町が取得した「森林セラピー基地認定」と森林浴発祥の地のブランドを活用しSNS等で国内外への宣伝活動を展開。

【その他】
・令和6年は寝覚地区を主に中山道歴史復刻事業を企画。中山道歩きガイドツアーやワークショップ等を開催し、中山道の観光振興を図った。